

火災リスク対策で採用増

非溶接工法 現場負担軽減も

YKKAP

これまでアルミサッシを躯体に固定する際に必要だった溶接作業の代替工法として、YKKAP

が提案している非溶接工法。11年度から累計の採用物件は450件を超え、ゼネコンなどに定着してきた。



安心、安全に作業できる
で新築マンションを施工中の古久根建設（東京都文京区、渡部貞良社長）は、初めての採用。居室部分の窓枠、玄関ドア枠から、エントラ

ンスドア枠まで、7階建て・32戸の建物のほぼ全面に取り入れた。高橋良和所長は「火災の心配が減り、施工管理の立場からメリットが大きい。職人の就労改善にも役立っている」と効果を口にする。

現場では、サッシ施工を担当する米森工業（茨城県水戸市、米森厚社長）の作業員が、躯体に打ち込んだアンカーと枠側の部品との間に高強度樹脂

剤を注入していく。1か所にかかる時間は数秒。手慣れたようすでリズムよく作業が進む。「最初はいままで通りできるか不安があったが、思っていた以上にやりやすく、すぐに流れ作業でできるようになった」（作業担

手慣れたようすでリズムよく作業が進む。「最初はいままで通りできるか不安があったが、思っていた以上にやりやすく、すぐに流れ作業でできるようになった」（作業担

手慣れたようすでリズムよく作業が進む。「最初はいままで通りできるか不安があったが、思っていた以上にやりやすく、すぐに流れ作業でできるようになった」（作業担



現場の防護ネットを配慮した。溶接作業は、火災や感電などリスクが大きい工程

現場の防護ネットを配慮した。溶接作業は、火災や感電などリスクが大きい工程

現場の防護ネットを配慮した。溶接作業は、火災や感電などリスクが大きい工程